

第67回日本身体障害者福祉大会
ふくおか大会

大会会長あいさつ



大会 会長
社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会 会長 阿部 一彦

今なお、新型コロナウイルス感染症の終息が待たれるなかですが、こうして第67回 日本身体障害者福祉大会ふくおか大会を開催することができました。

阿部一彦大会会長あいさつ

6月20日(月)、第67回日本身体障害者福祉大会ふくおか大会がYouTubeによる録画配信にて開催されました。昭和52年第22回大会が福岡で開催されて以来、45年ぶりの開催です。新型コロナウイルス感染症による影響から、1年間延期後の開催となりました。阿部一彦会長は、開会あいさつの中で「ウクライナに安寧を願うとともに、平和があつてこそその福祉の進展であり、平和とともに多様性を認め合い、他の人との平等のもとで地域共生社会の実現を目指し頑張っていきましょう」と述べました。大会は6月末日までYouTubeで録画配信が行われました。

6月20日午後1時から配信がスタート。オープニングは福岡各地の観光名所や祭礼、名物料理など郷土色豊かな映像です。大会は本大会副

第67回日本身体障害者福祉大会 心のバリアフリーを地域社会へ

日身連

発行所
社会福祉法人
日本身体障害者団体連合会
(中央障害者社会参加推進センター)
発行人 阿部 一彦
東京都豊島区目白3丁目4の3
ディアダックビル4階
TEL 03-3565-3399(代)
FAX 03-3565-3349
http://www.nissinren.or.jp
Japanese Federation of
Organizations of the
Disabled Persons (JFOD)
年間購読料 正会員1部 300円
非会員1部 1000円

会長でもある日身連 土岐達志副会長の力強い開会宣言で幕が開きました。
第1部では、国土交通省、東京オリンピック・パラリンピック推進本部、復興庁等で要職を務められた東北大学公共政策大学院の御手洗潤教授が「『パラリンピックのレガシーを活用した共生社会の実現』に向けて」と題した講演を行いました。オリパラの成果を振り返りながら、共生社会に込められた意味と可能性について語られ、ともに実現を目指していくことの大切さを述べられました。また「『心のバリアフリー』の推進に向けて、一人ひとりができることを行うのが大切」と強調、「皆さんが行動されることで、パラリンピックのレガシーとしての共生社会が形成されると、私は信じております」と、激励と期待を込められた講演となりました。
第2部では式典と議事を行いました。大塚洋大会実行委員長(福岡県身体障害者福祉協会理事長)の開催あいさつの後、長きにわたり地域において障害者福祉の向上に貢献してこられた50名の方が永年功労表彰を受けられ、お写真とお名前が紹介されました。来賓のごあいさつでは、奥出吉規厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長より、後藤茂之厚生労働大臣の激励メッセージを代読いただきました。
議事では、令和3年度事業報告(常務理事兼事務局長 菊地通雄)、令和4年度事業計画(本大会副会長 日身連副会長 河内修二)、大会宣言(本大会副実

第67回日本身体障害者福祉大会
ふくおか大会

実行委員長あいさつ



大会 実行委員長
公益財団法人 福岡県身体障害者福祉協会 理事長 大塚 洋

第67回日本身体障害者福祉大会ふくおか大会は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、昨年度の大会に引き続きオンラインを活用し開催することとなりました。

大塚洋大会実行委員長あいさつ

行委員長 社会福祉法人福岡市身体障害者福祉協会会長 清水邦之、大会決議(副実行委員長 公益財団法人北九州市身体障害者福祉協会理事長 柴田泰博)をそれぞれ行いました。
最後に、次期開催地として社会福祉法人和歌山県身体障害者連盟の西井幸男会長より68回大会開催の意気込みを語られ、本大会副会長でもある森正義日身連副会長が閉会の言葉を述べて終了しました。
対面で集うことは叶いませんでしたが、全国の皆さんに元気をもたらしただ大会となりました。